

### I 水戸一高創立 140 周年記念試合の開催にあたって



創立 140 周年記念試合  
実行委員長  
(水府倶楽部 副幹事長)  
**黒木 雅宏**

三の丸倶楽部の会員の皆様におかれましては、平素より母校硬式野球部に多大なるご支援を

賜り、厚く御礼申し上げます。

母校水戸第一高等学校は、今年創立 140 周年を迎えます。奇しくも今年是全国高等学校野球選手権大会が 100 回目を迎えた年でもあります。この記念すべき節目の年に、水府倶楽部（水戸一高硬式野球部 OB 会）は母校および知道会との共催により、創立 140 周年記念事業の一環として硬式野球部による記念試合を開催することといたしました。

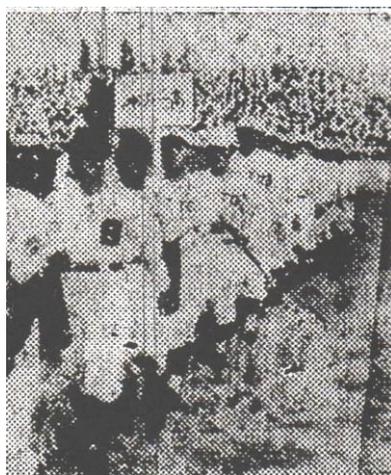
母校 140 年の歴史において、硬式野球部はその歴史とほぼ共に歩み、そして彩りを加えてきました。母校創立は明治 11 年（1878 年）ですが、明治 20～21 年ごろには川村九淵教諭が原書からルールを翻訳して生徒に教え「ベースボール」を母校に初めて伝授し、明治 24 年には早くも野球部が誕生します。その後、明治 29 年から 3 年間行われた栃木県尋常中学校（現宇都宮高）との定期戦は全校的な盛り上がりを見せました。そして全校生徒の半数以上が野球に親しみクラスマッチの校内野球大会が大変盛んに行われるなど野球熱が高まっていた中、明治 38～39 年ごろ飛田穂洲（当時は飛田忠順）を擁して水中野球部最初の黄金時代を迎えます。その後不幸な対外試合禁止時代を経て、昭和 3 年および 4 年には夏の甲子園に連続出場を果たし、戦後においても、昭和 28 年からの夏の県大会四連覇および昭和 29 年の三度目の甲子園出場を果たすなど再び黄金時代を迎えます。（以上、「水戸一高百年史」「熱球 120 年水戸中学水戸一高野球部の軌跡」による）

その後も甲子園出場には届かないものの年によっては県大会上位進出、関東大会出場などの実績を残します。昭和の終盤からは私学の台頭などにより上位進出が困難となっていきますが、そうした中でも第 80 回選抜高校野球大会（平成 20 年）の 21 世紀枠茨城県推薦校に選ばれるなど一定の成果を残しています。何より夏の高校野球応援は欠かせない母校の校内行事とし

て定着し、球場では今でも変わらないその風景と盛り上がりを目にすることができます。

さて、記念試合の相手校について、10 年前の創立 130 周年記念試合の際は早稲田実業と慶應義塾高を招待しましたが、今回は作新学院高に声を掛けさせていただきました。同校の学校創立は当校と同じ明治十年代という伝統校です。同校硬式野球部の輝かしい戦績はここで詳しく触れるまでもないでしょう。昭和 37 年史上初の甲子園春夏連続優勝、怪物と呼ばれた江川卓（元巨人軍投手）を擁して昭和 48 年選抜ベスト 4、そして 2 年前平成 28 年夏の甲子園で 3 度目の全国制覇を成し遂げるなど、我が国の高校野球界を代表する名門校です。

ここでは、母校硬式野球部と作新学院硬式野球部との所縁について少しご紹介することとします。両校は、夏の甲子園出場を争った昭和 28 年の北関東大会の 1 回戦で対戦しています。水戸一高百年史では、「昭和 21 年 4 月から本格的活動を再開した硬式野球部は、戦後の野球ブームに乗って急速に力をつけていった。



北関東大会開会式での入場行進の様子

そして、28 年には県内でも指折りのチームに成長し、同年 7 月 27 日には全国大会県予選決勝戦で水戸商を 5 対 1 で破り、宇都宮市の北関東地区予選出場がきまった。これは、21 年、25 年、26 年につぐ戦後四度目の県代表出場であった。好投手として注目されていた三年桜井薫投手を擁する本校チームは、大会初日の 8 月 2 日、第二試合で作新学院と対戦したが、頼みの桜井が不調で、波に乗った作新の打線に長短 12 安打を許し、4 死球を与えるという荒れようであった。これに対し、大きく落ちるドロップを武器とする作新の渡辺投手に九つの三振を奪われ、結局 5 対 2 で敗退した。」と紹介されています。前述の通り、この年から夏の県大会四連覇を成し遂げる母校硬式野球部は当時まさに茨城県を代表するチームであ

ったと言えるでしょう。

一方、作新学院は、この年以降何度も北関東大会に出場した記録が見られ、5年後の昭和33年遂に初の甲子園出場を果たします。そのように考えると、昭和28年の対戦は「茨城県を代表する強豪伝統校」と「メキメキと力をつけてきた栃木県の新興私学校」の対決

という構図だったのではないのでしょうか。作新学院硬式野球部の創部は明治35年(1902年)ですので当時であっても「新興」と呼ぶのは語弊があるかも知れませんが、いずれにしても今回そのような所縁のある両校が65年の時を経て対戦するわけです。作新学院は今年で8年連続夏の甲子園に出場していますから昭和28年当時と大きく状況は変わってしまったと言わざるを得ませんが、その当時にも思いを馳せながら今回の記念試合を観戦したいと考えています。

ここまでの話ですと、「水戸一高硬式野球部は昔強かった」だけで終わってしまいそうですが、母校硬式野球部が「学生のモデルとなる文武両道を地で行く活動を継続して行っている」点についても忘れてならないと考えています。部員たちは勉学に励みながら限られた時間の中で勝利を目指し練習に打ち込んでおり、そうした中で、前述の通り21世紀粋茨城県推薦校に選ばれるなどの成果も残しています。また、現役引退したOBたちは、東大をはじめとする旧帝国大や早慶、国立医学部その他の難関校に多数進学しており、社会人となった後はそれぞれのフィールドで活躍しています。さらに、近年特筆すべきは大学でも野球を続けるOBが増えており、高橋直樹(平成21年卒、早稲田大学野球部OB)、平成24年秋東京六大学野球ベストナイン)、樋川大聖(平成27年卒、京都大学硬式野球部4年、関西学生野球連盟で投手として既に2勝)など、主要な大学リーグ戦で活躍する者も出てきていることでしょう。創立140周年という節目に開催するこの記念試合を、このような「新しい歴史」についても内外に広く周知していく機会としていきたいと考えています。

記念試合開催まで残すところ3カ月を切りました。運営に支障のないよう実行委員会として鋭意準備を進めて参る所存です。対戦相手は全国屈指の強豪ですが、後輩の現役部員たちには水戸一高硬式野球部らしい澁刺としたプレーを見せてくれるものと期待しています。三の丸倶楽部の会員の皆様におかれましては、当日ぜひ会場に足をお運びいただき部員たちに声援を送っていただければ幸いです。

### 水戸一高創立140周年記念試合 開催概要

- (1) 日時 平成30年11月18日(日)  
9:30~ 開会式  
10:30~ 記念試合  
記念試合終了後 閉会式
- (2) 会場 ノーブルホームスタジアム水戸  
(旧水戸市民球場)  
水戸市見川町2201-1
- (3) 相手校 作新学院高等学校
- (4) 主催 水戸一高  
知道会 水府倶楽部
- (5) その他 入場無料

# 水戸一高惜敗

## 高校野球 北関東大会始まる

水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。

### 桐工失策に敗る

桐工は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。

### 櫻井不調が命取り

水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。

### 水商快勝す

水商は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。

### きよしの試合

水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。水戸一高は、昨季の甲子園出場をかけた第35回全関東大会で、手塚北陽高等学校と対戦したが、接戦を振り切り、2対0で惜敗。

選手権北関東大会(昭和28年8月3日茨城新聞)



開会式 平成30年7月7日(土)

### 鈴木 英明 (H29年度硬式野球部父母会会長)

夏の県大会が終了し、早くも一ヶ月が過ぎようとしています。テレビでは、本県代表の土浦日大が沖縄の興南に一回戦で敗れ、大阪桐蔭や横浜といった強豪校が勝ち進んでいます。一方では、敗れはしたものの三重の白山のような無名の県立高校の健闘も光っています。今、振り返ると水戸一高野球部の最後の夏大会二試合を比較的冷静に振り返れるような気がします。

一回戦の友部戦では、なかなか先取点が取れず、はらはさせられました。全ての出場校が多くの方々の支援と応援を力に全力で戦っているわけですから、当然といえば当然なのかもしれません。中盤均衡を破って、本校が得点すると一気に七回コールドで勝利を収めました。友部高校は、近年合同チームでの出場もあったと伺っていますが、ピッチャーを中心に素晴らしいチームであったと思います。一方本校は、一・二年生の活躍もありましたが、金澤・照井の三年生バッテリーが、完封勝利を成したことは、大きな意義があったかと思えます。

変わって、二回戦。対水城戦。水城高校とは、六月の水無月杯で対戦しています。敗れはしたものの一時七対五でリードし、水城高校に危機感を感じさせたゲームでした。水城高校としては、やりにくい相手だったのではないのでしょうか。夏大会当日は、本校が四回に先取点を取り、大いに期待を抱きましたが、その回裏には、水城高校に気合いが入り、大量六点を許してしまいました。その後、一点を返しましたが、残念ながら七回コールドで敗北しました。夏の地方大会ではありますが、あの全校応援、観衆の中で、普段通りの力あるいはプラスαの力を発揮することの難しさを感じました。

二回戦で破れはしたものの、選手たちは全力を尽くしてくれたものと思っております。チームは昨年7月に新チームに変わった時点でかなり厳しい評価を受けていました。ジュニア大会でも、二回戦で僅差で鹿島に敗れ、秋季大会では、これまた僅差で水戸工業に敗れました。しかし、冬期練習では、かなり厳しい基礎トレーニング

を積んだと聞いています。三月の練習試合開幕を迎えると思えるようなチームになっていました。声も出ていますし、チームがひとつになっていたように思います。体も明らかに大きくなっていました。シーズン初の練習試合では波崎柳川と善戦し、清真学園を下しました。その後、春季大会では、一回戦で接戦の末清真学園を倒し、二回戦に駒を進めましたが、水戸葵陵高校に敗れました。一・二年生の戦力が加わり、いいチームになってきたと思えました。

全校生徒や水戸一高教職員の皆様、監督、部長、顧問の先生方をはじめ後援会の皆様のご支援・ご指導を考えると期待に応えることのできなかった夏大会の結果であったかもわかりません。しかし、夏の甲子園大会を見ても、勝利も大切ではあるが、それ以上に大切なものがあるような気がしてなりません。この夏を戦った三年生は、非常にチームワークがよかった。それぞれの役割を自覚し、最後まで誠実に役割を遂行しました。結果、マネージャーを含めた十一人が三年間ひとりも欠けることなく活動できました。結果の如何に関わらず、全員が水戸一高野球部で活動できたことに満足し、誇りに思っているのではないのでしょうか。このことは、卒業後必ず次のステップにつながっていくと思います。また、チームとしてそれぞれの役割を笑顔で前向きにこなしていくチーム力が、水戸一高野球部躍進の原動力のような気がしてなりません。スポーツ推薦で全国区から集めた私学にはない県立の野球の原点はここにあると信じています。是非近い将来こういった雰囲気大切にしつつ、まずは



開会式 茨城大会歴代優勝校紹介



ベスト8入りし、甲子園出場のチャンスをねらって欲しいと思います。夏の県大会で球場の観客をすべて味方につけるようなチームになっていただけたら有り難いと思っています。

今後も父母会OBとして陰ながら水戸一高野球部の活躍を応援して参りたいと思います。応援そしてご指導・ご支援いただきました全ての方々に感謝し、筆を置きたいと思っています。ありがとうございました。(8月14日)

**一回戦** 平成30年7月10日(火)ノーブルホームスタジアム水戸  
天候:晴・曇  
試合時間:1時間54分(9:57~11:51)

	1	2	3	4	5	6	7	計
友部	0	0	0	0	0	0	0	0
水戸一	0	0	0	0	0	2	5	7

バッテリー:金澤-照井

三塁打:岡田(7回)  
二塁打:折橋2(2回、7回) 岡田(3回) 古谷(6回)  
単塁打:岡田(1回) 渡辺(4回) 照井2(4回、7回) 古谷(7回)

出場メンバー

1番	ピッチャー	金澤	(3年)
	7回代打	蒲原	(2年)
2番	ライト	佐次	(1年)
3番	センター	岡田	(3年)
4番	レフト	松尾	(3年)
5番	ファースト	古谷	(1年)
6番	サード	渡辺	(3年)
	5回セカンド		
7番	キャッチャー	照井	(3年)
8番	ショート	折橋	(1年)
9番	セカンド	鈴木	(3年)
	4回代打	関山	(3年)
	5回サード	黒崎	(2年)



**二回戦** 平成30年7月14日(金)ノーブルホームスタジアム水戸  
天候:晴  
試合時間:2時間00分(9:58~11:58)

	1	2	3	4	5	6	7	計
水戸一	0	0	0	1	0	1	0	2
水城	0	0	0	6	1	2	X	9

バッテリー:片根(~4回2/3)・佐次(~4回3/3)・金澤-古谷

単塁打:渡辺2(2回、7回) 佐次(4回) 蒲原(6回) 古谷(6回)

出場メンバー

1番	ファースト	佐次	(1年)
	4回ピッチャー		
	5回ファースト		
2番	ライト	蒲原	(2年)
3番	センター	岡田	(3年)
	5回サード		
4番	キャッチャー	古谷	(1年)
5番	レフト	松尾	(3年)
6番	サード	渡辺	(3年)
7番	セカンド	鈴木	(3年)
	5回ピッチャー	金澤	(3年)
	7回代打	照井	(3年)
8番	ショート	折橋	(1年)
9番	ピッチャー	片根	(2年)
	4回ファースト	吉川	(2年)
	5回センター		



前会報第20号発行以降（3月～8月）の活動状況について報告します。

- (1) 今年度の総会を去る6月10日（日）に知道会館で開催し、会員の皆様へ事前配布しました活動報告、会計報告を承認いただきました。  
また、平成28年度父母会長馬場氏の幹事（父母会担当）就任も承認されました。
- (2) 会員拡充策の一環として、7月末に引退した3年生部員の父母会の皆様へ入会案内を配布しました。また、本倶楽部の活動紹介と会員募集に関する記事掲載を知道会事務局へ依頼しました。
- (3) 野球部支援として、幹事会で承認された以下4件について会費から支出しました。
  - ①バッティングマシン（父母会・水府倶楽部共同）
  - ②茨城大会必勝祈願玉串料（父母会・水府倶楽部共同）
  - ③8月北海道遠征費（一部）
  - ④茨城大会前激励品（リンゴジュース80缶）
  - ⑤コーチ謝礼（水府倶楽部共同）
- (4) 公式戦応援では、春季地区大会代表決定戦で葵陵高に0-7で惜しくも敗れました。夏の茨城大会で

は一回戦で友部に7-0（7回コールド）で勝利しましたが、二回戦で水城に2-9（7回コールド）で敗れました。猛暑のなか、応援帽子を着用した多くの会員の皆様に応援いただきました。

- (5) 2015年から運用を始めたホームページでは、会員限定で試合情報を「試合予定」及び「試合結果（詳報）」に載せています。8月20日（日）現在の総アクセス数は約120,000回に達していません。「交流掲示板」も会員交流の場として活用ください。

- (6) 本号（第21号）では先の茨城大会の様子を特集記事としてまとめました。父母会長として部員の活躍を見守ってこられた鈴木氏にも観戦記を寄稿いただきました。一方、最近は大学野球でも活躍するOB部員が増えていきますので、シリーズ記事として逐次紹介しています。

今回は茨城大学の監督兼外野手として最後のシーズンを迎える綿引治朗君（平成26年卒）です。

北海道遠征同行記 森 利克

8月2日（木）～6日（月）に札幌を主とした北海道遠征に同行してきたのでその概要を紹介する。

監督、部長、部員総勢25名は予定の7:00前に全員茨城空港に集合。搭乗したスカイマーク便は8:35定刻に新千歳空港に向け離陸し、10:10新千歳空港に着陸。水戸より気温、湿度ともに明らかに低い好天に迎えられた。道内移動で5日間お世話になる北海道バスの岡本運転手に迎えられ、札幌郊外の東海大札幌高校へ移動。同校は以前東海大四高として甲子園出場した強豪校。第一試合は14:00過ぎに開始された。片根君が先発し佐次君がリリーフしたが、相手の力強いスイングと守備の乱れもあり、単壘打2本に抑えられ、0-13で力の差が出た試合であった。それでも第二試合では初回から蒲原君、黒崎君の連打で2点先取、2回には橋爪君、飯村君、佐次君の長短3連打で3点を取って勢いに乗り、飯村君と黒崎君が好投して5回終了ながら5-2で勝利した。



3日(金) 恵庭南戦

翌3日（金）は恵庭南高校で札幌西高を交えた巴戦。第一試合の恵庭南戦では黒崎君が投打で活躍し、小沼君が2本の長打を放ったものの5-12で敗れた。第二試合の札幌西戦では6回まで片根君が自責点なしで踏ん張ったが、後半守備が乱れ、1-7で敗れた。

3日目の4日（土）は札幌からバスで約1.5時間の鶴川町立田浦球場で一日中練習した。同球場の使用には近くの道立鶴川高校野球部鬼海監督、國井コーチ（平成23年卒先輩）に大変お世話になりました。投手陣は傾斜角約20度長さ約40mの坂路を使って登坂、跳びなど過酷な筋力トレーニングに励み、野手陣は昨日までの守備の乱れを修復するノックを受けた。この練習には海

老澤コーチが学期試験の合間を縫って1泊2日の強行軍ながら参加してくれた。

翌5日（日）は札幌西高で合同練習した。午前中は基礎トレーニング、午後は守備練習が主であった。新鮮な練習法が多々見られた。



6日(月)札幌南戦

最終日の6日（月）は札幌南、弘前と練習試合をした。試合開始前には北大で学ぶ平成27年卒の高田先輩がお土産持参で応援に来てくれた。第一試合では蒲原君が好投して札幌南を長打による2失点に抑え、最終回に片根君の二塁打で同点引き分けとした。第二試合の弘前戦前には北大で学ぶ古森先輩（平成26年卒）と金子先輩（平成29年卒）が応援に参じてくれた。弘前との試合は青山君の二塁打と橋爪君のタイムリーで2点先取したものの3回には5本、4回には4本の長短打を集められ、4回終了時点で計9失点し敗れた。試合終了後あわただしく空港に向かい、父母会の皆様お待ち茨城空港には予定より10分遅れ18:55着陸した。



6日(月)激励に来てくれた先輩たち

5日間の遠征における練習試合は1勝4敗1分であり、特に守備の強化が課題と感じられた。ケガやトラブルもなく、全員無事に練習や試合に取組めたことは幸いである。相手校の監督、コーチ、部員、運転手の皆様、多大なご負担をいただいた父母会の皆様に感謝します。また、後輩の遠征を激励してくれた先輩部員にも感謝します。2日間の基礎練習を含めた遠征の成果は、来月の秋季大会で現れると期待している。

## IV シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

茨城大学硬式野球部 綿引 治朗 (平成 26 年卒)

今でも 3 年生の夏の敗戦を思い出すことがあります。人生で一度だけタイムスリップできるのなら、あの夏に戻りたいです。そのような悔しさがあったからこそ、上級学校に進んで白球を追いかけているのだと思います。



私には高校時代から行きたい大学がありました。夏の結果は納得のいくものではないけれど大学に行ってもっと高いレベルで野球がしたいと思い、受験勉強にも一所懸命に取り組みました。しかし、現役では合格することができませんでした。諦めることなどできず浪人をしました。必死に頑張った一年も報われずまた同じ大学に嫌われてしまいました。やっとのこと後期で茨城大学に受かったときは涙が出るほど嬉しかったです。

茨城大学の硬式野球部は、自分が目標としていた大学より戦力や設備の面でも劣ります。さらに指導者がいません。すべて自分たちで運営を行います。最初は環境に戸惑いもありましたが、先輩方のおかげですぐに慣れることができました。部員数が多くないということもあり、私も 1 年生からレギュラーとして試合に出ることができました。3 年生になり、監督として指揮をとる立場になりました。その時に改めて学生野球の良さや難しさを実感しました。自分が指揮をとった一年間はなかなか思うような結果を出すことができ

ませんでした。しかし、野球について、それ以外の運営についても考え抜いたこの一年間は自分にとって大きな財産となりました。

今までの人生で多くの挫折を経験しました。受験に失敗したとき野球を続けるかも迷いました。しかし、「今できること」をやろうと考えた時、大学時代にしかできないことと考えたら大学野球しかありませんでした。そう思い、足を踏み入れた大学野球はとても充実したものになっています。

新チームになり秋の大会を控えている後輩たち、目標の大学に向けて日々勉強している後輩たちも、目標のために「今できること」を考え、計画的に取り組んでください。あの時あれをやっておけばよかったと思わないようにしてください。結果よりプロセスに後悔するな。



最後に、日頃から三の丸倶楽部の皆様にはご支援・ご指導いただき厚く御礼申し上げます。プレイヤーとしては最後となる秋季リーグに有終の美が飾れるよう残りの期間も精進していきますので、応援よろしくお願いたします。

## V 硬式野球部 名簿

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎

(敬称略)

顧問 武士 敬一 太田 泰助

### 主将 蒲原 大稀

私たちは、2 年生 11 名、1 年生 11 名、マネージャー 1 名の計 23 名で活動しています。今年のチームは、去年のチームの時から試合に出ていたメンバーが多く残っています。片根をはじめとした左右のピッチャー陣を中心として、粘り強く守れるのが特長です。また、折橋、古谷、佐治、青山らは中学時代に選抜チームでプレイした経験があり、高いレベルの野球を知っています。さらに野球のプレイ以外の面でも、データ班や情報収集班などを作って、様々な面でチームの勝利に貢献している部員がいます。それぞれの長所を生かした「全員野球」で勝利を積み重ねていきます。

私は新チームのキャプテンとして、今年は「発言することを活発にしたい」と考えています。先ほども述べたように、今年のチームは、部員一人一人が様々な

長所を持っています。それぞれが自分の考えたことをチーム全員に発言、共有すれば、本当にたくさんの発想と可能性を持ったチームになると思います。定期的にミーティングの時間をとり、全員でチームの方向性を確かめ合いながら、日々前進していきます。まずは、目の前の一試合一試合に全力を注ぎ、しばらく遠ざかっている県大会出場を目指して練習します。

水戸一高野球部の一員であるという意識と誇りを忘れずに頑張りますので、応援よろしくお願いたします。





主将

蒲原 大稀  
稲田中  
外野手・投手



雨谷 俊太郎  
笠原中  
内野手



飯村 颯太  
茨城大附属中  
投手



井坂 史周  
笠原中  
外野手



岡野 楽  
笠原中  
内野手



小沼 瞭太  
千波中  
捕手・内野手



片根 崇行  
城里常北中  
投手・外野手



副主将

吉川 俊  
水戸三中  
外野手・内野手



黒崎 宗矩  
多賀中  
内野手・投手



橋爪 健宏  
勝田二中  
内野手



三浦 健太郎  
平沢中  
外野手



柳田 綾乃  
駒王中  
マネージャー

<<<< 二年生 >>>>

部員名簿

>>一年生 >>>>



青山 拓矢  
多賀中  
内野手



副主将

折橋 秀哉  
佐野中  
副主将・内野手



川勾 恒太郎  
茨城大附属中  
内野手



久保田 康舜  
那珂湊中  
内野手



見坂 恒輝  
八郷中  
外野手



古谷 崇晃  
下館中  
捕手・内野手



左次 泰晟  
下館中  
投手・外野手・内野手



田中 広海  
水戸一中  
内野手



豊田 楓斗  
坂本中  
外野手



前田 知哉  
友部二中  
投手



宮野 礼門  
茨城大附属中  
投手



## Ⅵ 試合結果・予定

平成30年度前半 公式戦・準公式・定期戦結果			
月	日	大会	結果
1	2	豚汁会	水戸一 ●3-7水府倶楽部(8回終了)
4	14	春季地区大会一回戦	笠間市民 ○6-5清真
19	"	代表決定戦	" ●0-7水戸葵陵
6	2	市内大会一回戦	水城 ○7-3那珂
4	"	二回戦	水戸啓明 ●10-12水城
7	10	茨城大会一回戦	ノブルホーム水戸 ○7-0友部(7回コールド)
14	"	二回戦	" ●2-9水城(7回コールド)

以下新チーム

8	18	ジュニア大会二回戦 (Aシード決定戦)	水戸一 ●3-9鹿島学園
21	"	ジュニア大会敗者復活戦 (Bシード決定戦)	水戸一 ○4-0那珂

平成30年度前半 練習試合結果				
月	日	球場	結果	備考
3	11	波崎柳川	○18-2清真 ●2-4波崎柳川	
	23	常総市民	●4-5海道一 ●4-6 "	
	24	水戸一	●1-8安積 ●1-5 "	福島県立
	28	水戸一	○7-6花巻農 ●6-7 "	岩手県立
	29	常陸大宮市民	●2- 9弘前 ●1-12佐久長聖	青森県立
	31	多賀	●2- 9多賀 ●8-10 "	
4	5	守谷	●7-8守谷 ●2-7 "	
	7	牛久栄進	●7- 9牛久栄進 ●4-12 "	
	22	中央	●3- 5中央 ●2-11 "	
5	5	宇都宮	●1-3宇都宮 ●0-2 "	栃木県立
	6	土浦一	●8-15土浦一 ○5- 1 " ○9- 7 "	一年生主体
	13	水戸一	● 6-8緑岡 ○10-2 "	
	14	土浦湖北	●8-12土浦湖北 ●3- 8 "	Aチーム
	水戸一	●0- 9 ●5- 9 "	Bチーム	
	20	つくば東風	○11-5つくば東風 ○ 6-0 "	
26	明野	●1- 4明野 ●4-20 "	Bチーム	
27	つくば国際	●1-5つくば国際 ●4-8 "		
6	9	Jスタ土浦	●0-1麻生	
	10	水戸一	●8-10佐原 ○5- 3 "	
	17	太田一	●2-3太田一 ○6-2佐和	Aチーム
	友部	○5-3笠間 ○8-5友部	Bチーム	
	25	桐生球場	●5-14桐生 ○8- 0 "	群馬県立 8回終了
	鹿島	○7-4鹿島	Aチーム	
	30	水戸一	○6-5 " ●1- 6日立一 ●6-15 "	Bチーム

以下新チーム

月	日	球場	結果	備考
7	29	牛久栄進	○6-1牛久栄進 ○8-5 "	
8	2	東海大札幌	●0-13東海大札幌 ○5- 2 "	
	3	恵庭南	●5-12恵庭南 ●1- 7札幌西	北海道立
	6	札幌南	△2-2札幌南 ●2-9弘前	北海道立 青森県立
	14	石岡一	○8-2一宮商 ●6-9石岡一	千葉県立
	16	しらすわグリーンパーク	○4-3安積 第二試合雷雨中止	福島県立
	26	勝田工	○ 3-2勝田工 ○10-7 "	

平成30年度後半 試合予定(平成30年8月27日現在)			
年	月	日(曜)	大会・試合・会場等 (V:相手高G, H:水戸一高G)
平成30年	8	29(水)	練習試合 対守谷(V)
		2(日)	練習試合 対銚田一(V)
	9	5(水)	秋季大会水戸地区予選組合せ抽選会
		8(土)	秋季大会水戸地区予選(~9/11)
		14(金)	秋季県大会組合せ抽選会
		17(祝)	練習試合 対つくば国際(V)
		19(水)	秋季県大会(~9/27)
	10	11(木)	秋季関東大会組合せ抽選会
		20(土)	秋季関東大会(~10/28) 於山梨県
		27(土)	水戸地区一年生大会(~10/30)
	11	18(日)	学校創立140周年記念試合(対作新学院 ノブルホーム水戸)
平成31年	1	2(火)	水府倶楽部定期戦/豚汁会(H)
	3	9(土)	練習試合解禁日

### 三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒茨城県教育長)  
 会長：鬼澤邦夫 (S38年卒常陽銀行会長、知道会会長)  
 事務局長：森利克 (S38年卒)

幹事：  
 照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母会)  
 池永充宏 (H23、24年卒父母会)  
 船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)  
 飯田芳久 (H元年卒)  
 馬場威彦 (H30年卒父母会長)

//////// 会員を募集しています //////////  
 ◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の  
 会員以外どなたでも入会できます。  
 ◇特典:会員帽子(入会時)の配付、会報(年2回)の送  
 付など  
 ◇年会費:一口 3,000円(何口でも可)  
 ◇手続き:氏名、住所、TEL 番号、メールアドレスを下記  
 までご連絡ください。

森利克 Tel/Fax : 0294-53-1351  
 E-mail : ihm2158@ak.wakwak.com  
 口座番号 常陽銀行 本店  
 普通預金 2945619  
 サンマルクラブ

### 編集後記

文藝春秋「同級生交歓」より



文藝春秋六月号の「同級生交歓」欄に、昭和47年卒の一高野球部OBが載っていました。向かって一番左がヤクルト球団専務の江幡氏、その右がJFEスチール社長の柿木氏です。(その右二人は野球部OBではありませんが、グローブシップ社長の矢口氏、大崎電気工業常務の根本氏) 柿木氏には「入魂第16号」にご寄稿いただきました▼さて、春のセンバツから導入されたタイブレークが、この夏とうとう適用されました。選手の負担軽減という大前提があるとはいえ、受け手の立ち位置によって、いろいろな意見があり、悩ましいところではあります。とりえず、タイブレーク元年です。高校野球の戦い方のターニングポイントであることは間違いないようです。(照沼)